

医学部の収容定員変更の趣旨等を記載した書類

1. 収容定員変更の内容

琉球大学医学部医学科の平成 20 年度以降の入学定員については、平成 21 年度に「経済財政改革の基本方針 2008」に基づき 5 名の恒久定員増を、平成 21 年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成 29 年度までの期限を付した 2 名の臨時定員増を、平成 22 年度に「経済財政改革の基本方針 2009」に基づき 5 名の臨時定員増を、平成 27 年度に「新成長戦略」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増をそれぞれ実施した。

平成 29 年度を期限とする 2 名の入学定員について、平成 31 年度までの期限を付した再度の入学定員増を行い、平成 30 年度の入学定員を再度の定員増を行わなかった場合の 110 名から 112 名に変更する。

これにあわせて、収容定員についても平成 31 年度までの期限を付した臨時の入学定員増を踏まえ、再度の定員増を行わなかった場合の 645 名から 649 名に変更する。

2. 収容定員変更の必要性

沖縄県は、沖縄本島 130 万人、宮古島、石垣島に各 5 万人、久米島に 8 千人、その他 10 数島に 400—4,000 人、総人口約 144 万人の島嶼地域である。その島嶼環境における沖縄県の医療にとって、医師の不足や専門医の地域偏在化は深刻な健康・生活問題となっている。

昭和 56 年琉球大学医学部開設から平成 29 年まで、毎年琉球大学医学部出身者の約 40—50% が沖縄県の医療に係わり、現在では沖縄県医師の約 44% を占め、地域医療に貢献する医師の育成という医学部の理念を実践している。しかしながら、本県においても、都市部を除く地域においては、医師の不足や診療科の地域偏在が深刻な問題であり、島嶼環境に即応した医療人の育成と言う点では、未だ不十分である。この問題の解決には、離島・へき地医療者の医学・医療の知識、技術の維持のため、先進的知識・技術の修得を継続して行う生涯教育が必要であり、かつ、医療者の労働・生活環境の改善に対応した施策を行う事が重要である。

県内唯一の医育機関である本学医学部は、大学病院連携型高度医療人養成推進事業「多極連携型専門医・臨床研究医育成事業」及びがんプロフェッショナル養成プランに基づき、これらの問題点の解決に取り組んできた。加えて、離島・へき地での医師の充足を目的に平成 21 年度より、沖縄県の修学資金援助をうけて、地域枠学生の受入を開始し、段階的に増員して現在各学年 17 名の学生を推薦入試で受け入れている。そして、学部教育においては、地域医療の基礎となるオールラウンドの医療知識・技術が身につけられるよう、琉球大学医学部附属病院各診療科とおきなわクリニカルシミュレーションセンター、沖縄県立病院の特徴を生かしつつ連携下に地域医療実習などを通して、総合診療や専門的技術の重要性を指導している。

このように、医学部の卒前・卒後教育の改革、地域枠の導入を行って、県立病院の充実を図るためのプログラムを構築している。しかしながら、一部の専門領域では、依然として深刻な人材不足（後継不足）と地域偏在化があり、本申請において、平成 29 年度を期限とする医学部臨時定員の再度の定員増を行ない、地域枠定員を維持する。

3. 収容定員変更に伴う教育課程等の変更内容

地域医療に関する卒前教育は、医学部医学教育企画室、医学部附属病院地域医療部、おきなわクリニカル・シミュレーションセンターが連携して資料1のとおり行っている。1年次に行う医学概論B（地域医療）、外来患者付添い実習、救急車同乗実習にはじまり、3年次の離島地域病院実習（県内離島、北部地域の県立病院・診療所での実習）、4～5年次の地域医療実習（沖縄本島内の診療所にて在宅医療を含む地域医療臨床実習）、6年次の離島・へき地でのクリニカル・クラークシップまで、全学年に渡って、地域医療に関する講義、実習を導入している。さらに、問題解決型の講義・実習を学年縦断的に実施している。地域医療を学ぶためのPBLチュートリアルでは、2年次から5年次までの学生が参加し、主に上級生がチューターとなってPBL形式で問題解決型の教育を行い、地域医療への理解を深めている。地域医療を学ぶための学生セミナーでは、沖縄本島北部や離島での地域実習、セミナーを実施し、学部学生のコミュニケーション能力や地域の医療を担う意欲・使命感の向上を支援している。加えて、地域卒の学生に対しては、学年縦断的に実施する講義・実習への参加を促すとともに、1年次に東北地方、長崎県、長野県など他県のへき地・離島を訪問し、それぞれの医療機関・大学病院での取り組みについて学習する機会を設けている。

定員変更後も、現在の教育方針を継続していく予定である。そして、琉球大学医学部附属病院が中心となって関係医療機関、医師会、市町村、保健所等を含む行政機関等と協働する沖縄県地域医療支援センターと医学教育企画室が連携し、地域医療を含む医学教育の改革、地域卒学生の教育を行う予定である。

4. その他

(1) 卒後研修での取り組み

①初期臨床研修医に対して

- ・オリエンテーションにおいてAdvanced OSCE ACLS（二次救命処置）講習会を行い、2年次は離島・へき地医療研修（希望制）を実施する。

②後期専門研修医に対して

- ・目指す専門医資格に対応するプログラムや大学院社会人入学を利用できるローテート制度を設定する。
- ・大学院での専門医養成コースと連動させ、医療ニーズに対応した人材養成を実施する。
- ・地域における救急医療の態勢作りを踏まえ、救急医療に特化した救急専門医を養成するだけでなく、すべての医師に対する救急医療を重視し、地域連携とプライマリ救急医療を各診療科で教育する。

③医師の派遣・紹介の仕組み

- ・琉球大学医学部附属病院に設置される沖縄県地域医療支援センターを中心として、琉球大学医学部・診療科及び県内の各拠点病院と連携し、離島・へき地における医師の適正配置と個々人のキャリア構築と専門性の特化を一体化させたプログラムを運用する。

④臨床研修指導医養成セミナー

R y u M I Cの指導医を対象とした、臨床研修指導医養成セミナーを毎年開催している。

⑤女性医師定着策

ア) 職場環境の改善・整備

- ・大学内に、院内保育所を設置している。
- ・男性医師の理解を深め、男女協働参画の意識を高めるFDを随時実施している。
- ・職場再復帰のための生涯教育・研修を、琉球大学医学部附属病院医師キャリア支援センターや沖縄県地域医療支援センターが支援する。

イ) 「琉球大学医学部女性医療人の会」の設立および女性医師支援事業の開始。

- ・平成19年に沖縄県医師会で設立した「沖縄県女性医師の会」と連携した「琉球大学医学部女性医療人の会」を設立した。女性医師支援の啓発シンポジウムを開催し、復帰医師支援研修プログラムを開始している。
- ・卒前教育として医学部学生全員に対して、選択科目講義として「女性医療人のライフプランについて考える」を実施し、生涯のライフプランを立てる準備をさせるカリキュラムを構築する。

(2) 入学者選抜段階における取組の推進

沖縄県の特徴である島嶼環境に即応した医療人の育成を図る。これまで琉球大学医学部開設以来、多くの医師を輩出してきたが、沖縄県の離島・へき地医療従事医師の希望者は少なく、引き続き離島・へき地医療への充実を図る予定である。

①地域を指定した入学者選抜（地域枠）

募集人員：14名（離島北部地域を除く沖縄県内の高等学校を卒業した者）

募集年度：平成27年度～

地域を指定した入学者選抜（離島・北部枠）

募集人員：3名（沖縄県の離島・北部地域の高等学校を卒業した者）

募集年度：平成27年度～

②入学者選抜方法

推薦入試により、「地域枠」（14名）、「離島・北部枠」（3名）の2つのカテゴリーに区分し、選抜する。

③地域枠および離島・北部枠学生のアドミッションポリシー

- 地域医療に貢献するための県民・地域住民意識を持てる
- 自分の置かれた社会的・地域的立場をしっかりと意識できる
- 学習意欲の維持ができる
- 自己学習ができる

地域枠学生においては、琉球大学医学部地域枠学生のアドミッションポリシーを意識・自覚した学生を選抜し、卒前教育において、医学教育企画室ならびに沖縄県地域医療支援センターが中心となり、卒後における自己の地域医療貢献のライフスタイル像を身につけさせ、卒後も、沖縄県地域医療支援センターが中心となり、常に自己啓発・生涯学習しながら医療実践する医師を育成する。

[参考：医学部医学科平成29年度入学定員]

事 項	一般選抜		推薦入学Ⅱ	計	第2年次編入学
	(前期日程)	(後期日程)			
医学部医学科	70人	25人	17人	112人	5人

④地元高等学校に対する取組

- ・高校生を対象としたオープンキャンパスを実施し、琉球大学医学部のアドミッションポリシー、医学部カリキュラム、教育・研究・診療環境、地域医療教育を説明し、在校生による医学部生活紹介、受験心得等の説明を行い、また卒業生からは、卒業後の初期臨床、進路、専門医になるための紹介等を行い、その後は、進路相談に応じている。
- ・県内高等学校長等との懇談会を年1回開催し、意見交換を行い、優秀な学生の入試受験を呼びかけている。
- ・随時、県内高校の希望を受け、高校への入試説明会、医学部施設内見学・説明を行っている。とくに、宮古、八重山、北部地区の高等学校へ出向き、離島・北部枠制度の理解を図っている。

琉球大学医学部医学科における地域医療に関する学部教育カリキュラムの概要(着色は地域枠学生を中心としたプログラム)

学年	形態	科目名	期間	場所	教育内容
1年生	講義	医学概論B (地域医療)	1回	琉球大学医学部基礎講義棟	地域医療の概要を講義し、地域医療に対する関心を刺激する。
	実習	外来患者付添い実習	1日	琉球大学医学部附属病院	患者としての目線で医療や福祉の現場を見せることにより、将来の学習の動機づけを行う。
	実習	救急車同乗実習	1日	那覇市内消防署	救急車に同乗し、救急活動の実際を体験的に知る。
2～5年	実習	地域医療実習 (地域枠学生のみ)	4日	沖縄県外の医療施設・大学病院	地域医療に取り組み県外病院を見学し、他県の取り組みを学習する。
	講義	地域医療を学ぶためのPBLチュートリアル (地域枠学生中心、選択)	8回程度	おきなわクリニカルコミュニケーションセンター	小グループ内での討論を通して、地域医療に関する課題を自ら見出し、自己主導型学習を身につける。
2年生	講義	地域医療/プライマリ・ケア	8回	琉球大学医学部基礎講義棟	地域医療・プライマリ・ケアに関する講義を行い、その位置づけとプライマリ・ケア医の役割を認識する。地域医療に対する関心を維持する。
	実習	病院・福祉施設 体験実習	1日	実習協力病院・協力施設	幅広い医療・福祉の現場を見学し、社会と健康・疾病との関係や地域医療について理解する。
3年生	実習	離島地域病院実習	5日	沖縄県立・公立の離島・へき地の病院	離島・北部地域の病院で実習を行い、疾病と生活環境の関わりを理解し、地域住民の心理・社会的背景を知る。
4年生	実習	沖縄県福祉保健所施設見学実習	1日	沖縄県福祉保健所	福祉保健所施設等を見学実習し、疫学と予防医学を含め、環境との関わりを学ぶ。
1～3年	実習	地域医療を学ぶための学生セミナー (地域枠学生中心)	3日	沖縄県立離島診療所等 *夏季休暇または春季休暇を利用して実施し、沖縄県と連携して実施	各離島・地域の病院や診療所、福祉保健施設等にて見学実習及び地域住民への意識調査等を行ない、学生の自主的な活動を促し、地域医療への関心と理解を深める。
4～5年	実習	地域医療実習	5日	実習協力施設 (地域診療所、訪問看護ステーション、助産院など)	地域の医療・福祉施設を見学実習し、その役割を理解する。
6年生	実習	離島・へき地でのクリニカル・クラッキング (選択)	2～4週間	離島・へき地の県立病院、診療所	離島・へき地診療所において診療参加型の実習を行い、離島・へき地における地域医療への理解を深め、地域医療に対するモチベーションを高める。

